

山羊改良に関する情報交換会

(独) 家畜改良センター茨城牧場長野支場

1, 日時

平成 27 年 2 月 3 日 13:30 ～ 17:15

平成 27 年 2 月 4 日 8:45 ～ 9:30

2, 場所

(独) 家畜改良センター 中央畜産研修所 演習室

3, 議題

- (1) 山羊改良増殖目標 (27 年度改正) について (農林水産省)
- (2) 泌乳計算ソフトについて (畜産技術協会)
- (3) 国内の山羊飼養状況について (長野支場)
- (4) 長野支場が取り組む山羊の振興対策について (長野支場)
NZからの導入山羊の活用状況、人工授精技術等について
- (5) 生産者からの現状報告
- (6) 生産者からの報告についての質疑及び総合討論
- (7) 次回開催について

4, 出席者

山羊乳生産者

ランランファーム	斉藤 真
那須高原今牧場	高橋 雄幸
グリーンビズ牧場	小坂 誠
吉田興産	稲場 仁一

ブリーダー

もちづき山羊牧場	望月 衛
山羊野ナナファーム	今井 幹男

獣医師

ごーとふぁーむ	佐藤 剛
---------	------

関係機関

農林水産省生産局畜産部畜産振興課	鶴田 茜
公益社団法人 畜産技術協会	八木 淳公
家畜改良センター監事・家畜改良増殖目標めん山羊研究会委員	小谷 あゆみ

家畜改良センター

改良部長	菊池 淳志
改良部種畜課長	仲西 孝敏
改良部種畜課	門脇 宏遠
企画調整課技術協力室長	名倉 義夫
長野支場長	加藤 信夫
長野支場種苗業務課長	土方 浩嗣
長野支場種苗業務課	岡部 健太郎
長野支場種苗業務課	田中 翔子

5, 主な議事内容

(1) 改良について

- ・ まず乳量を増やす事が課題なので、長野支場が NZ から導入した山羊には高い期待をしている。
- ・ 良い加工製品を作るためには、乳量だけでなく乳成分についても追求していく必要がある。
- ・ 共進会向けに選抜する時は、体格や乳量、産子数で選抜する。子山羊市場のある群馬県や長野県では改良に対する意識が高いが、その他の地域ではその意識が低い傾向にあり血液更新が難しい状態にある。
- ・ 共進会を行っている群馬県や長野県では、種畜生産という意識があり血統の維持が出来ているが、そのような地域でも長野支場からの育種改良素材の配布に頼っている。
- ・ 山羊乳生産・販売者が育種改良素材を利用して種畜生産まで行うのは難しいので、長野支場には育種改良素材の配布と技術指導を継続してもらいたい。
- ・ 地域によっては交配用の雄山羊を確保するのが難しい場合があるので、比較的取り組みやすい簡易な AI（人工授精）方法や雄山羊を提供してくれるブリーダーが必要になる。

(2) 飼料生産について

- ・ 利用していない土地があるので草地整備を行って、購入飼料を減らしていきたいが、基本的な知識や技術がないので、粗飼料生産技術も有する長野支場には技術指導等をしていただきたい。
- （以上の要望に対して長野支場からは）未利用資源を利用している生産者もいるが、総じて購入飼料への依存度が高いのが現状だと思う。その土地や気候、設備等で対応が変わってくるので、一度現状を見せてもらい、自給飼料を活用出来るように技術指導等で協力していきたい。

(3) 繁殖技術について

- ・ 繁殖頭数が増えてくると自然交配では間に合わなくなるため、今年から AI に取り組んでいく予定。

- ・ 一昨年より簡易 AI 法に取り組んでいる。雄山羊の更新が出来ない地域では、長野支場からの精液を利用して血液更新をするしかない。今年も AI は実施する予定。
- ・ 昨年初めて簡易 AI 法を実施したが、あまり受胎率は高くなかった。簡易法とはいえ、ある程度の技術は必要だと思うので、今後も長野支場から技術指導を受けながら受胎率を向上させていきたい。
- ・ 簡易 AI 法は、従来の経管鉗子法に比べて技術的にも容易なので、初めて人工授精に取り組む人にも好評。しかし、山羊初心者や小規模で飼育しているところでは、発情を見逃してしまうので、長野支場には発情適期の見極めについても指導をしてもらいたい。
- ・ AI で高い受胎率を得るためには、発情適期の見極めに加えて精液の取り扱いも重要になる。

(4) 山羊肉の利用について

- ・ 昨年、生後 7 ヶ月程度の去勢山羊を、宇都宮や東京のレストランに出荷した。半丸か一頭で販売をしたが、柔らかく臭みもなく、ラムより子牛肉に近いと好評だった。
 - ・ 春に産まれた雄山羊を去勢して、めん羊とともにと畜・解体して、東京のレストランに出荷している。
 - ・ 子山羊ではなく、2 歳程度の去勢山羊も山羊肉として利用出来るのだろうか。
- 放牧に使った 2 ～ 3 歳の去勢山羊をと畜し、加工業者にジャーキーやソーセージに加工してもらい、道の駅などで販売を開始した。

(5) 山羊の多様な利用について

- ・ 新たな山羊の改良増殖目標に山羊の多様な利用を図る旨が盛り込まれる予定。
 - ・ 除草目的での山羊のレンタルはブームになっていると感じる。しかし、地元住民の理解を得ずに始めると、鳴き声などでトラブルになるケースもある。初めて山羊を飼う人には、フォローが必要だと思う。
 - ・ 近隣であれば飼育管理面でフォローが出来るが、遠方に数ヶ月単位で山羊を貸し出すと、衰弱して戻って来ることもある。
 - ・ 除草だけでなく、鳥獣害対策にも山羊放牧を利用できるのか。1 シーズンでどのくらいの草を食べるのか。
- 除草目的での放牧面積は、1a あたり 1 頭が基本になる。鳥獣害対策としても利用可能。山羊が耕作放棄地等の除草を行うことで、鳥獣が隠れる場所が無くなり近寄って来なくなる。鹿などは 2 年程度で山羊に慣れてしまうが、山羊の管理のために人間が行くことによる効果はある。

(6) 衛生対策について

- ・ 山羊関節炎・脳脊髄炎（CAE）については、乳量にも影響があるようだ。これまで動物衛生研究所が検査を行っていたが、地元の家畜衛生保健所に相談をすれば検査を行うことが出来るようになっていく。
- ・ 栃木県では県内の山羊飼養者を集めて「山羊ネットワークとちぎ」を立ち上げた

ころ。今後は、山羊の飼養管理や衛生対策について勉強会などを開催して技術向上していきたい。



家畜改良センター本所（福島県西郷村） 栃木県の今牧場の山羊飼育状況等を見学
での情報交換会